

人口減少社会における創造的復興とは何か？ - コメント -

2023 Nov 12

工藤尚悟

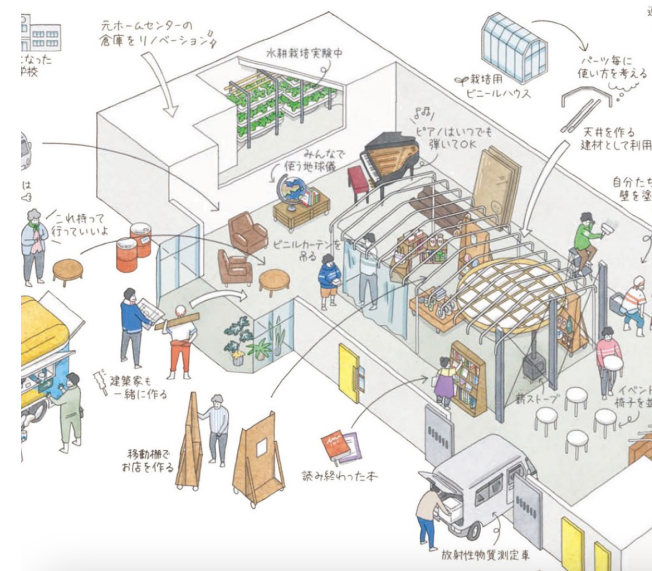
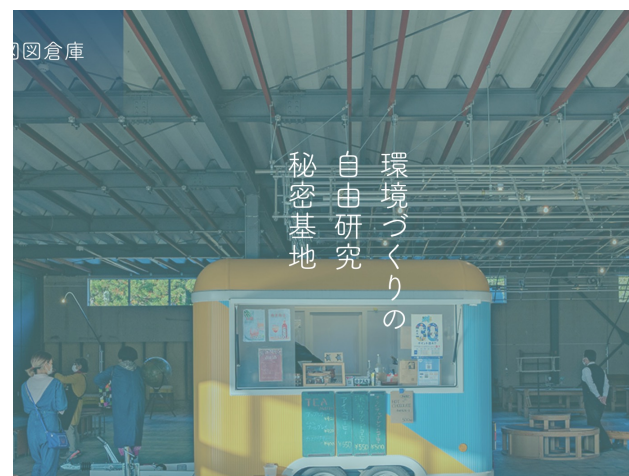
国際教養大学

セッションの論点

1. 創造的復興や創造的まちづくりの知恵を創る「場」の形成メカニズムはどのようなものなのか？あるいは、なぜそうした「場」の形成が上手くできないのか？
2. 「場」の進化としての専門家や行政担当者や住民の協働や学びや変化は、どのような条件や要因やメカニズムなのか？あるいは、何故、専門家や行政担当者や住民の協働や学びや変化が起きないのか？
3. 「場」の進化の触媒や促進役となる境界知作業者は誰なのか？境界知作業者は、イノベーションを創造する知識創造プロセスや資源動員プロセスにどのように貢献したのか？あるいは、何故、境界知作業者が生まれず、社会イノベーションが起きないのか？

飯舘村：図図倉庫 (ずっとそうこ)

- 人口：約1,400人（うち200名が移住者）、6,500人（全村避難前）
- 主体：松本奈々さん（福島市出身）、矢野淳さん（東京出身）、合同会社MARBLINGが改修・運営
- 場所：南相馬から福島に抜ける国道沿い、ホームセンターが被災後、10年以上空き店舗。復興支援による道の駅やプレイパークから100mほどの地点
- コンセプト：「つながりを再生する秘密基地」
- 活動：カフェ、ラボ、ハイドロポニックス、商品開発
- 特徴（創造的な取り組みの出处）
 - 空き店舗（空間）をコンセプトを立てて活用 → 協働のための拠点になっている。
 - 動きを作り出した個人に周りがかかる。周りの人たちがかわれる「かかわり代」をつくる。
 - 地域の内側と外側がまざる。実施者が五城目町を視察、交流あり。



秋田県南秋田郡五城目町 (ごじょうめまち)

- 人口：約8,400人, 2013年から移住者・関係人口の数が緩やかに増える。
- 主体：一般社団法人ドチャベンジャーズ、移住者、地域の子育て世代
- 場所：秋田市から40分。県北内陸地区への通り道
- コンセプト：「世界一、子どもが育つまち」
- 活動：カフェ、アーツスペース、シェアオフィス
- 特徴（創造的な取り組みの出处）
 1. 多様な空間の再活用：閉校オフィス、空き店舗の改修、古民家ゲストハウス
 2. 日々の暮らしをより良くする〈企て〉と企て同士の乗っかり合い
 3. 地域の内側に、異質なものを滞留させる仕組み・空間がある（例：視察、教育留学、アーティストインレジデンス、Addressによる多拠点居住）



共通質問・コメント

1. 創造性が解放される・創発が生まれる場の特徴・個性
 - ・ 誰かの企てにのっかる・関わることができる物理的な場の存在
 - ・ 内と外を混ぜる・異質な者が流れ込む仕組み
2. 将来にむけての懸念点
 - ・ 関係人口との関わりを強めて地域づくりに活かす、というアプローチを維持するための地域側の規模のしきい値・必須要件はあるのか？
 - ・ 震災から復興に至るまでを経験した第1世代の意識を、次の世代にどのようにつないでいくのか？次世代育成。
3. 全体像のなかでどう福島のことを考えるのか。
 - ・ 全国的な人口減少社会 – 震災をきっかけとした急激な人口減とコミュニティの衰退
 - ・ 1950年代に人口減少がはじまったときの、地域開発に関する原発誘致以外のオプション（はあったのか）